

# 新規高卒者の地域間労働移動の動向 - 都道府県データを用いた分析 - (要旨)

伊佐勝秀 (西南学院大学経済学部)

近年、新規高卒者の労働市場は大きく変化していると言われる。先行研究によれば、その背景には、労働需要側の要因として、長期不況や経済・産業の構造変化、更には企業の採用方針の変化などがある。また労働供給側の要因としては、新規高卒者の就職行動における種々の変化が指摘されている。

本研究では先行研究を踏まえつつ、新規高卒者の労働市場のうち、特にその労働移動の時系列的な動向に注目した分析を行う。具体的には、新規高卒者の労働移動の時系列的な動向(移動パターンの局所的及び大域的な動向、及び平均移動距離の推移など)を明らかにし、その規定要因を重力モデルによって分析する。資料としては、『新規学卒者の労働市場』(厚生労働省職業安定局)などの集計データを用いる。

本稿で得られた結果を要約すると、以下ようになる。まず、新規高卒者の労働移動の活発さを、移動指数(Shorrocks 指数)を用いて計測したところ、指数の水準は一般労働者のそれよりも高いが、時系列的には低下傾向にある。また同様の傾向が、新規高卒者の平均移動距離によっても確認された。次に、このような新規高卒者の労働移動の低下要因に関する規定要因を調べるために、重力モデルによる分析を行った。その結果、新規高卒者の地域間労働移動において近年、労働需要側の「プッシュ=プル要因」と並んで、労働供給側の要因を反映していると解釈できる地域間の「距離」の果たす役割が大きくなっていることが確認された。その意味で、新規高卒者の県外就職の低下の要因として、「地元志向」の強まりが一定の影響を及ぼしていることが考えられる。